



「文化プログラムってなあに？」

実は「文化の祭典」でもあるオリンピック。
東京オリンピックの文化プログラムは、
2016年の秋から始まっているんだよ。



■オリンピック憲章と文化プログラム

オリンピックには、『スポーツを通して、体と心をきたえよう、世界のいろいろな国の人と交流しよう、そして平和な社会を築いていこう。』という目的があります。この考えのことを『オリンピズム』といい、オリンピックは、『オリンピズム』の考え方を、世界に広めるためのスポーツの大会です。

オリンピック憲章※1では、根本原則に、『スポーツを文化や教育と融合させ、より良い生き方を創造すること』が書かれ、開催国には『文化プログラムの実施』が義務付けられています。

※1 国際オリンピック委員会(IOC)によって定められているオリンピックに関する約束事



「開催国は、様々な文化芸術イベントを開催しましょうということなんですね。」



「オリンピックにあわせて、その国の文化を国内外に発信することで、自分たちもオリンピックの機運を盛り上げ、参加していこうというのが、『文化プログラム』なんだよ。」

■東京2020大会に向けた文化プログラムの枠組

大会組織委員会※2では、2016年のリオデジャネイロ大会終了後から2020年東京大会までの間※3に開催される文化事業に対して『東京2020参画プログラム』という枠組みを設け、参画促進や大会後へと受け継がれる取り組みを推進しています。(図A) また、文化庁※4では「beyond2020プログラム」という、日本の文化を活かした、次の世代に受け継がれる文化プログラムを全国に展開しています。(図B)

※2 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

※3 この期間の取り組みを『文化オリンピックアード』と位置づけています

※4 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局

	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会		文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議
プログラム	東京2020文化オリンピックアード		beyond2020プログラム
	東京2020公認文化オリンピックアード	東京2020応援文化オリンピックアード	
概要	「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム 東京大会の主なステークホルダー等が大会ビジョンの実現に相応しい文化芸術性の高い事業を実施	「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム 非営利団体等がオリンピック・パラリンピックムーブメントを裾野まで広げる事業を実施。	2020年以降を見据え、レガシー創出に資する文化プログラム 営利・非営利を問わず多様な団体が実施。 ※オリンピック・パラリンピックの文言使用は不可
実施主体	組織委員会、国、開催都市、会場所在地地方公共団体、公式スポンサー、JOC、JPC	会場所在地以外の地方公共団体、独立行政法人を含む非営利団体	文化オリンピックアードの実施主体に加えて、公式スポンサー以外の企業も対象
ロゴマーク			

図A

図B

文化プログラムには
・20万件のイベント
・5万人のアーティスト
・5000万人の参加
・訪日外国人旅行者
2000万人に貢献
という数値目標が
掲げられているよ。



■神奈川県での推進『マグカル』

文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー、略して「マグカル」。神奈川県では、このマグカルを、県民の方々に知っていただくため、マグカル(マグカル ドット ネット)を立ち上げ、県内の多彩な情報を発信しています。

→ マグカル ドット ネット <http://magcul.net/>

マグカルは
102ヶ国語に
対応して
いるよ。

